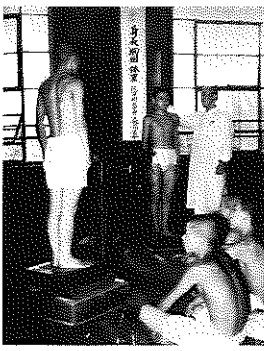


壮丁教育調査と青年訓練所

荒木 肇

「常識は残らない」、珍しいことは書かれるけれど、当たり前のことは記録されません。ある時代の常識は、文字に残った資料を大切にする歴史では忘れられません。経験者がいても、聞かれなくては答えません。すると時代が下がると誰も知らなくなりま

す。
徴兵検査に関する常識では「壮丁教育調査」です。中等学校に在学する人、卒業した人は受けません。小学校の尋常科(6年)や高等科(2年)を出た人、実業補習学校(3年)で学んだ人だけが身体検査を受けた午後に残って受験しました。



写真：徴兵検査会場

■全国一斉学力テスト

軍隊にとつては入営する若者の「学力」について、当然関心を持ちます。すでに1873(明治6)年の徴兵令にも「書簡並びに算術」のレベルを知るテストを行うことが書かれていきます。1899(明治32)年には「徴兵事務条例施行細則」の改正があつて、それ以後、陸軍省統

計年報に師管別・聯隊区別の学力程度が載り始めます。
そうして1925(大正14)年には全国一斉の統一問題による調査が行われるようになりました。文部省にとつても、これは全国レベルの学力定着度を知ることができました。

北海道同2万8000、兵庫同2万5000、愛知県同2万5000、福岡同2万4000、新潟同2万2000であり、少ないところは沖縄同約4600、島根同4900、福井同7200、山梨同7300という様子です。
教育程度、いわゆる「学校歴」で最も多いのは高等小学校卒業です。義務教育の6年制の尋常科を出たあと、さらに2年間の高等科へ進んだ人でした。全体の32%です。続いて尋常科だけの同じく25%、中等学校卒業は同10%、高等教育の専門学校や大学の在籍、卒業は合わせて3.3%になります。だから予備役幹部の養成のための幹部候補生の受験資格者は、およそ13%余りです。

■進学率の実態

1932(昭和7)年度の調査を見てみましょう。資料は文部省社会教育局、33年3月発行のもので

す。
調査人員は63万4759人、6大都市とその他の市を市部として12万2075人、郡部51万2684人となります。つまり、若者の5人に1人はマチに住み、他の4人はムラで暮らしていたのです。
道府県別壮丁数は、多い方から東京府約4万、大阪府同2万9000、

北海道同2万8000、兵庫同2万5000、愛知県同2万5000、福岡同2万4000、新潟同2万2000であり、少ないところは沖縄同約4600、島根同4900、福井同7200、山梨同7300という様子です。
教育程度、いわゆる「学校歴」で最も多いのは高等小学校卒業です。義務教育の6年制の尋常科を出たあと、さらに2年間の高等科へ進んだ人でした。全体の32%です。続いて尋常科だけの同じく25%、中等学校卒業は同10%、高等教育の専門学校や大学の在籍、卒業は合わせて3.3%になります。だから予備役幹部の養成のための幹部候補生の受験資格者は、およそ13%余りです。

■問題の一例

算術です。「10銭に3つのみかんは1円50銭で幾つ買えるか」、「午前5時9分に出た、午後6時14分に日が入ると、日の出から日の入りまで、何時何分か」、「或る町の青年

団の昨年の経費は375円で、その3割6分を団費として団員225人が負担した。団費1人当たりいくらかであろうか」などでした(現代漢字

算術です。「10銭に3つのみかんは1円50銭で幾つ買えるか」、「午前5時9分に出た、午後6時14分に日が入ると、日の出から日の入りまで、何時何分か」、「或る町の青年団の昨年の経費は375円で、その3割6分を団費として団員225人が負担した。団費1人当たりいくらかであろうか」などでした(現代漢字

算術です。「10銭に3つのみかんは1円50銭で幾つ買えるか」、「午前5時9分に出た、午後6時14分に日が入ると、日の出から日の入りまで、何時何分か」、「或る町の青年団の昨年の経費は375円で、その3割6分を団費として団員225人が負担した。団費1人当たりいくらかであろうか」などでした(現代漢字

算術です。「10銭に3つのみかんは1円50銭で幾つ買えるか」、「午前5時9分に出た、午後6時14分に日が入ると、日の出から日の入りまで、何時何分か」、「或る町の青年団の昨年の経費は375円で、その3割6分を団費として団員225人が負担した。団費1人当たりいくらかであろうか」などでした(現代漢字

算術です。「10銭に3つのみかんは1円50銭で幾つ買えるか」、「午前5時9分に出た、午後6時14分に日が入ると、日の出から日の入りまで、何時何分か」、「或る町の青年団の昨年の経費は375円で、その3割6分を団費として団員225人が負担した。団費1人当たりいくらかであろうか」などでした(現代漢字

協賛を経て定められる」。「ある商品の供給が多くなり需要が少なくなる」と、その値段は（安くなる・変わらない・少し高くなる・非常に高くなる）、「わが国の貿易の最も重要な取引先は（イギリス・アメリカ合衆国・支那・フランス）である。正解は、順に帝國議會、安くなる、アメリカ合衆国でした。

■道府県別成績順位

国語の平均正答率のベスト3は山形、佐賀、熊本です。静岡、愛知、栃木がそれに次ぎます、これらの各県は70%を超えています。全国平均が63%、これを超すのは岩手、宮城、福島、茨城、福井、三重、滋賀、京都、兵庫、和歌山、島根、岡山、広島、山口、香川、大分、鹿児島各府県でした。

算術の全国平均は55%です。ベスト3は山形、熊本、鹿児島、これとほぼ同じ佐賀でした。次のグループは平均以上、60%台の岩手、栃木、静岡、愛知、京都、奈良、広島、香川、大分というところです。

公民科では全国平均が48%でしかなく、ベスト3は山形、岩手、鹿児島、次ぐグループは宮城、福島、栃木、

長野、静岡、岐阜、富山、愛知、三重、滋賀、富山、佐賀、熊本、大分という状況でした。

■精鋭師団の学力

わが国の師団では東北、熊本の師団が強いといわれていました。県民性、気候風土に影響されるさまざまな条件もありましようが、この調査の結果も考えてみたいのです。

弘前に司令部を置く第8師団、すべて1聯隊区が1県全県です。典型的な郷土師団でした。山形の壮丁は全国でも目立つトップ級の学力、岩手の壮丁もそれに劣りません。青森も算術では全国平均以上、国語も平均よりやや劣る程度です。秋田だけは算術、国語ともに平均以下でした

が、その差は数%にしか過ぎません。次に熊本の第6師団、熊本、大分、鹿児島、宮崎、これまたほぼ1県1聯隊区。しかも、鹿児島、熊本という学力がたいへん高かった県もつています。大分は算術、国語どちらも平均以上、宮崎は国語についてはほぼ平均、算術でも平均以上となります。

まとめをすれば軍隊は近代組織です。学力が優秀な兵士がいれば当然、

軍隊は強くなります。また、興味深いのは当時、主に市町村が管轄した実業補習学校という夜学存在です。この在学率が20歳になつての基礎的学力の元になつていゝことも疑えません。昔の農山漁村の若者たちは昼の厳しい労働の後に、自ら学ぶべく、多く母校の小学校に併置された補習学校に通いました。また青年訓練所という入営前教育も行う学校に通つています。その努力がこの教育調査への差にもなつていゝのでしよう。東北も九州も、いずれもこの学校や訓練所の設置に熱心でした。